

イチゴの単収向上に向け、病虫害防除対策に取り組む

1 普及活動のねらい

イチゴ農家は、各戸で様々な課題を持っており、それらの課題をクリアすることにより、単収向上を目指している。これまでに、pF センサーを活用したかん水管理の改善（4戸）、育苗時の施肥管理の改善（4戸）、天敵活用によるアザミウマ類の防除（2戸）、高設栽培給液管理の改善（4戸）、新品種の検討（1戸）などの取組を支援した。今年度は、単収向上の妨げとなっている、育苗期及び定植後の病虫害（炭疽病、ハダニ類）の防除対策の徹底に取り組む2戸の農家を支援した。

2 普及活動の成果

提案した項目の実施状況は表のとおりであった。N氏は、週1回の薬剤散布の実施は天候や労働力の面から難しかったが、定期的な散布の必要性及び防除のためには様々な対策の積み重ねが重要であることを理解した。O氏は、提案した項目以外にも、育苗期の天敵や本圃でのハダニ捕獲器を利用し、ハダニ類の発生を抑えようと自ら対策を実施した。また、天敵放飼後の薬剤散布方法について、気門封鎖剤と化学農薬を組み合わせる必要性を理解した。

表 提案事項及び実施状況

対象者	N氏		O氏	
課題	育苗期の炭疽病対策		育苗期のハダニ対策	
提案事項及び実施状況	・週1回の薬剤散布	×	・気門封鎖剤の活用	○
	・降雨前後の薬剤散布	○	・摘葉後の薬剤散布	○
	・育苗ほ及び周辺の除草	○	・葉裏への散布	○
	・発病株の早期発見・除去	○	・定植前の灌注処理の実施	○
	・除草後に防草シートを張る			

×：10日に1回実施

3 普及活動の内容

個別巡回時に、病虫害防除の実施状況について聞き取りを行い、改善策について提案を行った。炭疽病防除対策として、週1回の薬剤散布（予防中心）及び降雨前後の薬剤散布、育苗ほ及び周辺の除草、発病株の早期発見・除去、育苗終了後の除草及び防草シートの設置について、ハダニ類防除対策として、薬剤抵抗性の発生を抑えるための気門封鎖剤の活用、葉を整理した後、葉裏にしっかりとかかるように薬剤散布を丁寧に実施すること、定植前の薬剤灌注処理を提案した（表）。



本圃での天敵利用

重点課題名	3 スマート農業技術の活用による野菜産地の育成
普及事項名	(6)イチゴにおける個別課題解決の推進